カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852－8113
長崎市上野町10－34
カトリックセンター内
TEL 095－843－3869
FAX 095－843－3417
振替口座 01880－5－2699
発行人
山田良秋
印刷所
株式会社 藤木博英社

教皇さまの意向

・世界
・日本

人々の生命を救うため死の危険にさらされている医師や医療従事者のために祈る
神に祝福された家族が、その絆の中に生きる喜びを次の世代に伝えられるように

復活教書

フランシスコ教皇様をお迎えするにあたり

大司教 ヨセフ 髙見 三明

主のご復活、おめでとうございます。神の独り子イエスはわたしたちの永遠の救いのために十字架につけられていのちをささげ、三日目に復活されました。わたしたちは、この神のいのちの勝利を告げ知らせなければなりません。

ところで、今年11月下旬にフランシスコ教皇様が東京に次いで長崎を訪れてくださいます。教皇様をお迎えするにあたって、教皇のことについておさらいをしたいと思います。

一、教会の土台、ペトロを頭とする使徒団

イエス様は30歳の頃宣教活動を始められました。神のことばを宣べ伝え、人々をあらゆる病気や苦しみから解放し、死と復活によって人類の救いを成し遂げて神の国を実現されました。イエスは、その神の国を目に見えるものとするために、ご自分を信じる人々の共同体すなわち教会を創設されました。手始めにペトロとアンデレ、ヨハネとヤコブを弟子として招きました。「弟子」はイエスの後に従う人々、いわばキリスト信者のことです。その後彼らは増えていきました。イエスはその弟子たちの中から12人を選び、「使徒」（遣わされた者の意）と名付け（ルカ6・13）、ペトロを彼らの頭（かしら）とされました。彼らはおよそ3年間イエスと起居を共にしながら、使徒としての養成を受けました。

キリストは復活後、彼らに「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝え」（マルコ16・15）、「すべての民をわたしの弟子にしなさい」（マタイ28・19）と言われ、聖霊を注がれました。使徒たちは、エルサレムをはじめローマ帝国内の各地で信じる人々の共同体を形づくっていきました。そして、それぞれ生涯を終える前に後継者として、監督すなわち司教を任命し、その協力者として長老すなわち司祭団、また助祭団をつくりました。

二、使徒団の後継者は司教団、ペトロの後継者は教皇

頭（かしら）ペトロと他の使徒たちが構成していた一つの使徒団は、ペトロの後継者であるローマ教皇と使徒たちの後継者である司教たちで構成される司教団に受け継がれました。使徒団も司教団もそれぞれ頭なしに存在しません。使徒団の頭ペトロがローマ教会の長として殉教したので、彼の後継者である教皇は、ローマの司教であると同時に司教団の頭として全教会の最高の牧者です。教皇の権能は完全、最高、普遍的です。その権能を、司教団は教皇と共にまた教皇の同意のもとに普遍教会の上に行使できます。公会議がその最高の場ですが、それ以外の場合でも常に教皇と司教団の一致と交わりを通して行使されます。

三、教皇は全教会の一致の根源・基礎

教皇によって全世界の教会に任命された司教たちは、互いに、またローマの司教との間で一致と愛と平和のきずなをもって交わってきました。「教皇は、ペトロの後継者として、司教たちの一致と信者の群れの一致との恒久的かつ目に見える根源であり、基礎」です。「個々の司教は、各自の部分教会（教区）における一致の目に見える根源であり、基礎」です。「したがって、個々の司教は自分の教会を代表し、すべての司教は教皇とともに平和と愛と一致のきずなによって結ばれて、全教会を代表」します（『教会憲章』23項）。

わたしたちの先祖は、250年の禁教時代の間も、キリストの代理として全教会を司牧されるローマの〝お頭（かしら）さま〟、パーパ（教皇）を慕い続けました。パーパが派遣する司教も司祭もいない中で、パーパとのこころのきずなと、いつの日かパーパが神父様たちを遣わしてくださるという希望を持ち続けたのでした。そしてそれは「信徒発見」の時、かなえられたのです。

38年前の1981年2月26日、聖ヨハネ・パウロ二世教皇様は、松山競技場の野外ミサの説教で次のように語られました。「私は日本がキリスト教のメッセージに再度門戸を開けてから一世紀後に、ローマの司教としてここに来ました。……さらにそれ以前二世紀にわたって、ひそかに殉教者の信仰を守り続けた先祖をもつ100年前の信者たちは……遠くにパパと呼ばれる人がいることを知っていました。今日そのパパは長崎の信者の言い伝えに敬意を表し、その子孫たちに直接、イエズス・キリストの心において彼らを愛していると語りかけるためにやって来たのです」。

四、フランシスコ教皇様

教皇様は、祖父母がイタリアからアルゼンチンに移住した貧しい家庭に生まれ、イエズス会司祭となってから日本での宣教を望まれたのですが、健康の問題でかなわなかったそうです。教皇として、とくに貧しい人、病人、悩み苦しんでいる人に心を寄せ、それを行動で示しておられます。パーパとしてわたしたち信者と日本社会に、すべてのいのちを守り、よりよい未来を開くための福音を力強く述べてくださるにちがいありません。また長崎から、核兵器が神と人に対する道から逸脱しているというメッセージを世界に向けて発信されます。訪日が意義深く実り多いものとなるよう祈りながら、教皇様をイエス様のようにあたたかくお迎えしましょう。

「教会における未成年者の保護」についての会合

バチカンに司教協議会 会長ら参集

2月21日～24日、「教会における未成年者の保護」をテーマにバチカンで開かれた会合に、全世界の司教協議会会長、男女修道会総長ら、約190人（日本からは司教協議会会長・髙見）が参加した。

1980年代後半から米国、アイルランド、オーストラリアなどで聖職者による未成年者への性虐待が相次いで明らかになり、カトリック教会全体にとって深刻な問題の一つとなってきている。そこで教皇様は、この問題について教会をあげて話し合うことを望まれた。初日に5人の被害者の体験談で生の現実を知らされた。現実を知ることから問題解決は始まる。3日間で問題への対処、予防策などについて9つの講話と言語別の分団会があった。また、教会だけでなく、家庭、社会、国際社会において子どもと女性がさまざまな性虐待や暴力、人身売買などによって悲惨な状況に置かれている。教会はもちろん、社会、国、国際社会全体で取り組まなければならない。

今後、教会は事実を開示し、教会法だけでなく民法によっても厳正に対処すると同時に、学校や神学校などで人間教育に力を入れる必要がある。今回の会合の内容は、各国の教会で生かされることになる。（髙見三明）

イエス様に倣って

純心聖母会 終生誓願式

去る2月11日（月）、長崎市三ツ山町の純心聖母会本部でシスタージャンヌ・ダルク中野春香（東京・潮見教会）、シスタールチア田島 恵（長崎・神崎教会）の終生誓願式が行われた。

髙見三明大司教はミサの説教の中で、「修道者は三誓願によって、自分のためではなく他者のため、しかも愛する人だけでなくすべての人のために自分自身をささげる生活に招かれている。純心聖母会は『与え尽くす十字架上のキリスト』のカリスマを生きることで宣教の使命を果たしている。今日、終生誓願を宣立されたシスター方も、十字架上で命までもささげたイエス様に倣って、自分の大切な人のためだけではなく、すべての人のために自分自身を与え尽くしながら福音宣教に励んでほしい」と宣立者を励ました。

多くの司祭、修道者、親族、友人に囲まれ、熱い祈りのうちに神に感謝と賛美をささげた。

信徒発見の聖母を記念

3月17日 大浦天主堂でミサ

日本の信徒発見の聖母を記念する3月17日、大浦天主堂で髙見三明大司教の主司式、18人の司祭の共同司式によりミサが行われた。韓国・テジョン教区からの巡礼団30人余を含む300人以上の信者らが共に祈りをささげた。

説教の中で大司教は、キリストの受難のときそばにいた聖母マリアは「神の母であり教会の母でもあった」と触れ、潜伏キリシタンたちが常にマリアを思い、ローマの〝パーパ〟を思い、十字架上で苦しみを耐え抜いたイエスに倣って迫害を耐え忍んだことについて語った。そして、彼らが信仰を伝えてきたことに感謝し、「私たちが潜伏キリシタンたちと同じように、愛をもって生きていくことができるように」と結んだ。

ミサの前には、聖堂内後方に据えられた〝紋章〟の除幕があった。この紋章は、日本二十六聖人を保護者とあおぐ大浦天主堂が「小バジリカ（Basilica Minor）」であることを示すもので、除幕後、大司教が祝福した。同天主堂の小バジリカ認可は、「日本の信徒発見の聖母」の祝日の認可申請の折（2013年）、当時の典礼秘跡省長官の助言をきっかけに、2016年4月26日付で下りたもの。これにより同天主堂は日本で最初のバジリカとなっている。

ほしかげ

「私と私の後継者に、尊敬と従順を約束しますか」「約束します」26年前に、何のためらいもなく返事をしたあの約束を思い出す。大神学院時代に指導司祭は「助力の恩恵」について口酸っぱく言っていた。「日々助力の恩恵が与えられてこそ、人はいただいた賜物を維持できる」と▲最近は毎日のようにルームランナーで汗をかく。「今日はいろいろあったからトレーニングを休もう。」理由を作るのは簡単だが、その日苦しい思いを避けたという後悔は、払った犠牲とは比較にならない。そう思い直し、遅くなっても乗る。しかし人が払えるものには限りがある▲叙階式でいただいた司祭職の恵みは、「払うべきものを払え」と神から要求されればひとたまりもない。25年26年も司祭職を与えられたのに、神にお返しできたものが何か一つでもあっただろうか。「主君はこの家来に、自分も妻も子も、また持ち物も全部売って返済するように命じた。」（マタイ18・25）命令なら自分に最も近いものでも手放すかもしれないが、「自分を売る」ことはしないと思っている。自分を売ってしまえば、自分ではなくなるから▲しかし、「それでも自分を売って返済せよ」と命じられるのであれば、致し方ない。自分が自分でなくなっても、取り立てる神が納得するまで返そう。長生きできればあと25年ある。誓った手前、それを反故にしたくない。（輝）

「喜びがなければ、だれの心も引き寄せられない」　教皇フランシスコ

宣教のための特別月間を過ごす④

イエス様の愛にまだ気付いていない あなたへ

中町教会信徒　小瀬良万里子

受洗

２０１１年３月、カトリック系の中学に通う娘の卒業アルバムにイエス様を慕う気持ちと洗礼を受けるとの決意が書かれてあるのを見て、私達は家族での洗礼を考え始めました。それでも、なかなか第一歩が踏み出せず、２０１２年のお正月を迎えました。

朝から家族で話をし、それこそ、大きな勇気を持って中町教会に電話をし、当時の主任神父様とお話をしました。神父様は、「電話ではなんですので、会ってお話を聞きましょう」と温かい言葉をくださり、神父様のご指導で、その年の８月19日に、夫と娘と私の家族３人で神様の子どもになりました。

洗礼間もない私達は神父様や教会の方々の計らいもあって広報委員の仕事を頂いたことで、躊躇なくいろいろな行事に参加でき、教会に馴染むことができたように思います。当時、我が家の宣教リーダーの役割を担った娘は大学生となり東京で青春を謳歌しています。

目からウロコ

教会と縁のない家に生まれた私が洗礼に辿りつけたのは、最終的には娘や夫のおかげですが、今思えば、全てが神様のご計画のように感じます。私は、公立のマンモス校といわれる小学校・中学校、公立高校で学びました。特に高校時代は、大勢の中に埋没し、心に余裕もなく、立ち位置を見失いそうになる中で自分の存在に価値を見いだせずにいました。

思いがけず進学した地元のカトリック系の大学で、キリスト教に出会いました。夏休みの集中講義で、当時、上智大学教授であられた神父様の講義を聞く機会がありました。講座名は、はっきり覚えていませんが主に『命』についての講義だったと記憶しています。妊娠出産・子育て、安楽死の問題などを３日ほどかけて丁寧に学びました。

『命』は人間でなく神様から、必要だから与えられるもので、全ての『命』は神様のもので、神様が愛している大事な『命』であること、だから『自分の命』も『他人の命』も『戦火で絶えている命』も『顧みられず生活されている人の命』も『死刑判決を受けた人の命』も『胎内に宿っている命』も神様が与えた『命』であり、神様からもれなく愛されている『命』であり、意味がある『命』であること。何人もそれを奪ったり、さげすんだり、ないがしろにすることは、神様への冒涜であり、何よりも重い罪だと学びました。

この『命』のことが理解できたとき、「自分の存在が神様から必要とされている」と感じ、涙を流し感動したことを今でもよく覚えています。本当にパウロの回心のように目からウロコ、生まれ変わった思いがしました。

それからは、何か悩むことがあっても、この『命』の法則に照らせば自ずと答えが出てきたように思います。

カトリックの学校で学ばせたい！

やがて、自分が親となり、子どもの学校を選ぶにあたって、多様化する価値観や厳しくなる社会の中では、人間の根っこの部分を健康に育てることが、何よりも大切と感じました。根っこさえしっかりしていれば、少々の嵐で枝が折れようが、寒さで葉を落とすことがあっても、やがて、新しい芽を吹くことができ、幹や枝を自ら大きくしていくことができるのではないかと思いました。

カトリックの学校で学ばせたい。娘はカトリック系の小中一貫校に入学しました。中学卒業までの９年間、子どもだけでなく、私達親が育てられ、かけがえのない日々を過ごせました。

日本では、教育現場の昨今を憂い、教育の有り様が盛んに論じられていますが、その答えは、この学校の中にあると思いました。

愛と感謝の教育の中で、自己の存在意義を知ったとき、人は、生きる力を得ることができます。この学校は、そのことを教えることができる数少ない学校のひとつであると私は思いました。長崎にはこのようなミッションスクールが数多くあり、子どもを育てる上で恵まれた環境であると思います。ミッションスクールが果たす役割は福音宣教に留まらず、社会にも大きな貢献を果たしており、もっと評価されるべきだと思います。イエス様の愛に気付くことができる、かけがえのないこの場所をもっと活用すべきであり、応援すべきであると考えます。

『命』のこと

この「命に関する問題」は、シノドス提言書でも見かけましたが、現在の日本における重要課題とも思えます。憂うべき現状である「虐待」「ＤＶ」「買春」「セクハラ」「パワハラ」「いじめ」「自死」「安易な堕胎」などは、全てこの『命』のことが理解されていないから起こると思えてなりません。

これらの問題は、『命』が、「自分のもの」「親のもの」「夫のもの」「組織のもの」「国家のもの」など、人間の所有物と誤解されるところから生まれ、「重い命」と「軽い命」の選別が、個人や組織、国家や社会の中で行われているための悲劇だと感じます。

私は、行政の末端で仕事をしており、以前、市民のさまざまな相談に対応する業務を担当していたことがありますが、法治国家であり、政教分離の日本では、当然ですが法律などの決まりごとで解決を図っており、ともすれば、「法律に反しないこと」イコール「悪くないこと」とする価値感が支配することもあり、「神様の御旨」を問う人達がもう少し増えたらなあと感じることもありました。

私は、行政や公立の学校や病院で取り扱うことが難しい最も大事な神様の『命』に携わることをカトリック教会に望みます。

特に、『命』が「与えられるとき」と「はぐくむとき」と「お返しするとき」をこれまでもカトリック系の学校や保育園、病院が担っておられますが、これからはもっと重要になると考えます。行政では難しい心の問題を取り扱ってほしいのです。そのことが人を救い、真の福音宣教にもつながると思えるのです。

イエス様の愛にまだ気付いていない あなたへ

生活の中心が教会やイエス様になって、６年が過ぎました。順風満帆とばかりはいかず、打ちひしがれ、涙する日々もあり神様にどうしてと問う日もありますが、神様のご計画を信じて聖霊の働きを感じながら日々を送ることが何よりの賜物と感じる今日この頃です。以前の私のように、イエス様の愛に気付かず満たされない思いで過ごしているたくさんの人々が、その愛に気付き、自分の存在意義に目覚め涙し、心を満たされた豊かな人生を送ってほしいと願っています。

また、私達信徒には福音宣教というミッションがありますが、「キリストを信じましょう」と呼びかけても「宗教の勧誘はしないでください」と言われるだけかもしれません。

キリスト者としての生き方や社会での活動などで、共感、癒やし、安らぎ、尊敬を感じる人がいたとき、そのキリスト者を通して、人はイエス様を見ることができると思います。

私もこれまでの人生の中で、何人かそのような人に出会い、そのことが洗礼につながり、今の自分があると感謝しています。

永井隆博士

最後に、私がキリスト教に興味を持ちながらも洗礼とまでは考えていなかった頃、ボランティアガイドで如己堂や浦上天主堂を案内する際、永井隆博士の本を読むようになりました。その中で、洗礼への思いが芽生えるきっかけとなった博士の著作『如己堂随筆』に納められている「お返事集七」の一部を紹介したいと思います。

「なぜあなたは、その門を入らないのですか？――なぜ門の前まで何回も行って、入らずに引き返したのですか？　なるほど、その門はデパートの入り口よりいかめしく、劇場の入り口よりは入り難く、遊覧地の門よりは狭いかもしれません。けれども、その門はいつも開いています――その天主堂の門は。（中略）恐ろしいことは何もありません。勇気なんかいりません。かえって邪魔になります。

門の向こうに、天主堂の玄関の前に、両手を広げて立っている、優しい顔の男の像がありますね。（中略）あなたに向かって、『さあ、私の腕にすがれ』と言いながら、両腕を優しく広くひろげて、あなたを待っておられるのです。

『われに来たれ。すべて労苦して重荷を負える者よ、われなんじを回復せしめん』と招いていらっしゃるのです。

あなたは今、大きな重荷を心に負っています。あなたは魂の苦しみによって、すっかり疲れています。その重荷を軽くし、疲れを治してくださるのは、イエズス・キリストです。あの石のご像がそれをするのではありません。あの天主堂の中の、正面祭壇にいつもある尊い聖体にまします生きたイエズス・キリストが、あなたを救ってくださるのです。そして、天国へ昇る道を教え、導いてくださるのです。

（中略）イエズス・キリストはいつも正面祭壇にいらっしゃいます。あなたの来るのを辛抱強く待っていらっしゃいます。（中略）安心しておすがりなさい。だれにも知れないように、こっそりあなたの苦しみを取り去り、悩みを治してくださいます。けっして大きな犠牲や代償を求めなさいません。

あなたが門まで行って中へ入らずに引き返したのは、まだほかに、なんとかして自分の力でこの苦しみを取り去る方法があるかもしれん、と思ったからではないでしょうか？――自分の力？……自分の力に少しでも頼っているのは、高慢心が残っているためです。（中略）あなたがその門を入りますように、私は小さなお祈りをささげています。」

永井隆博士が妻を原爆で失い、自らも死を目の前にした境遇の中で隣人の魂を救おうと書かれた手紙ですが、まさにキリスト者である博士の本の中にイエス様を見ることができたと思いました。

末筆ながら、未熟な一信徒の取るに足りない原稿をお読みいただき感謝いたします。失礼があればお赦しください。

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式
（有）栄光式典社
代表取締役　ヨハネ　西村　勇二
長崎市辻町7-18　TEL(095)844-4011
24時間営業　FAX(095)843-9896

世界平和へ祈りを…
明治石材
長崎本店　長崎市城栄町13-1
大村店　大村市赤佐古町287番地
HP　http://meijisekizai.shopinfo.jp
業務内容
お墓建立
納骨堂販売
お墓のリフォーム
霊名彫刻
電話（095）846-3598
電話（0957）50-3008

長崎カトリックセンター前　長崎市上野町1-5　TEL 095-845-6175
医療法人　平田クリニック
院長　ヨゼフ 平田哲也
内科・循環器科・入院可
通所リハビリテーションあり

イエス様を近くに感じて

望洋庵スタッフを招き 青年黙想会

3月3日（日）京都の望洋庵（青年のために開かれた祈りの家）のスタッフの指導による教区青年黙想会が大司教館で行われ、20人が参加した。

青年による講話、聖体を顕示し15分～20分の黙想、小グループでの分かち合いという流れが午前と午後に1回ずつ組まれたプログラム。聖書の分かち合いを中心に、いつもとは違う黙想会のスタイルに戸惑いながらも、新鮮さを感じ、積極的に取り組んでいる姿が見られた。

黙想会に参加した青年たちの声を紹介する。

「青年の講話に共感し、新しい発見があった」

「イエス様を近くに感じながらのゆるしの秘跡となった」

「試練から逃げてきたが逃げてはだめだと感じた」

「ご聖体を前にしてゆっくり黙想し、分かち合いをして、いつも以上にイエス様を近くに感じた」

「今日は広島と西武のオープン戦があり、今日の黙想会に参加するか迷ったが、参加してよかったと思う」

「これまで受けてきた愛を胸に、がんばりたい」

青年黙想会は2020年も、3月第1日曜日に大司教館で開催される予定。

自分自身を輝かせるために

上五島地区 高校生黙想会

2月11日（月）、福岡コレジオの院長、森山信三師を講師に迎え、上五島地区高校生の黙想会が青方教会で開催された。当日は70余人が参加した。

森山師は「自分自身を輝かせるために」というテーマのもと、これからの人生において大切にしなければならないことを、数々のエピソードを交えて話された。ある調査機関によると、日本人の若者たちの自己肯定感が諸外国に比べて低いことが明らかになったという。自分に自信を持てず、生きる意味を見いだすことが難しい今の世にあって、人との出会いが人を成長させること、人は決して孤独では生きていくことはできないことを諭された。また、教会が大切にしている「いのち」、魂あるいは精神といわれている、心の中心にあるものを大切に育んでいかなければならないことを示し、変化の激しい現代にあって、変わってはいけないものがあることを決して忘れてはならないと強調された。

（仲知教会・本田靖彦）

下五島地区でも黙想会

3月23日（土）は福江教会で、召命をテーマに下五島地区の高校生黙想会が行われ、17人が参加した。講師は3月21日に叙階されたばかりの稲田祐馬新助祭が務めた。

子どもと女性の人権相談室

最初のご相談はお電話でお願いいたします。詳細は各小教区に配布されているポスターをご参照ください。

場　所　カトリックセンター別館

連絡先　095・865・7829

時　間　月～金　10時～16時

＊休日（祝日・教区本部事務局休業日など）を除く。不在時は、留守番電話対応。

相談室室長　マリア 福田真理

国の重要文化財

黒島教会の工事始まる

2021年3月まで立ち入り制限

献堂117年になる黒島教会の耐震補強工事が、株式会社安藤・間（呼称・安藤ハザマ）によって行われることになりました。

2月17日（日）ミサ後に、これまでの経緯が佐世保市の文化財課によって報告され、続いて安藤ハザマの工事責任者によって工事内容と工事期間の説明表が参加者全員（120人ほど）に配られ、説明がありました。3月末から7月まで調査と実測が行われます。足場を組んで調査をし、実際の工事内容を決定します。工事のための現場事務所は旧小・中学校の校舎内に設置され、働く人の宿泊所に空き家が借り上げられています。

この4月の復活祭は現天主堂でできそうです。復活祭後に工事のために教会の部品を旧校舎の体育館に運びます。工事が始まれば、見学台が設置され、工事内容・進行状況を見ることができます（※）。

黒島の全人口は423人でカトリック信徒は336人です。150世帯が教会経済戸数（教会会計調べ）で、336人のうち70歳以上が169人、150世帯のうち70歳以上がいる世帯は110世帯です。

黒島教会の今回の修理費負担は2500万円です。積金を行っていますのでなんとかなりそうです。ただし教会備品、ご像の修理、カーペット、蛍光灯、空調設備など自前で負担することになっています。

黒島教会 主任司祭　大山 繁

※教会への立ち入り制限期間は今年2月から2021年3月までの予定。工事期間中は見学台の一部設置や特別公開が予定されている。

2019年度 定例司教総会

2月12日～15日、東京・日本カトリック会館で2019年度定例司教総会が開かれ、司教ら17人が出席した。主な報告事項と審議事項は次の通り。

報告…▼2019年WYDパナマ大会▼「津和野の証し人」列聖調査開始▼「2019年四旬節キャンペーン大綱」承認▼「教皇庁宣教援助事業」を「教皇庁宣教事業」に改称することの承認。

審議…▼日本における司祭養成に関して責任をもつ新しい部署「司祭生涯養成部門」を設置▼葬儀ミサを行うことのできない典礼日に関して、カトリック葬儀儀式書の緒言6を以下の通り訂正。「葬儀ミサは、守るべき祭日、聖木曜日、聖なる過越の3日間および待降節と四旬節と復活節の主日を除いて、すべての日に行うことができる。葬儀ミサが禁じられる日に司牧的理由から葬儀を行わなければならない場合、ミサではなく『ことばの典礼』と『告別と葬送』をもって執り行う。この場合、他のふさわしい日に死者のためのミサをささげることが勧められる」▼日本カトリック司教協議会の次期、各種委員会委員長・担当司教などを確定。任期は2022年度定例司教総会終了時まで。

〝大事なのは知ること〟

教皇平和メッセージ＆コンサート

2月11日（月）14時、カトリックセンターで教区平和推進委員会（岩村知彦委員長）主催の「教皇平和メッセージ＆神父さんとシスターとともに歌うコンサート」が開催された。

前半は、教皇フランシスコによる世界平和の日メッセージ「よい政治は平和に寄与する」に関する講演。講師を務めたコンベンツアル聖フランシスコ修道会の山口雅稔師は、難民との関わりからの気づきを導入に、家庭や学校における教育の大切さに言及した。また教皇メッセージを分かりやすく説き、平和とは何か、よい政治のためにどうすればよいのかを私たちが考えていく必要にも触れた。

後半は、昨年8月に沖縄平和学習に参加した高校生からの報告（写真）。訪問先で見聞きし調べたことを発表し、最後に各自が感想を述べた。「現地を訪れ、話を聴くことで（苦しみにあった）当時の人々の状況を知ることができた」「平和な世の中になるよう一人ひとりが行動する必要がある」「歴史をつなぐこと、思いを語り継いでいくことが重要。多くの人に伝えていきたい」などと語った。

集いの参加者の1人は「神父様のお話に『平和構築のために大事なのは知ること』とあったが、高校生たちの発表から、知って感じたこと、行動しようとする姿勢が伝わってきて、本当にそうだと思った」と語った。

集いでは多くの出演者による心温まる演奏も披露され、平和を考え、平和を感じる時間となった。

たまものを人々のために

各地で堅信式

平戸地区

2月17日（日）午後2時から高見三明大司教を迎えて田平教会で合同の堅信式が行われた。平戸地区から中学生25人、佐世保地区から中学生4人・大人1人の合計30人が堅信の秘跡を受けた。

大司教は堅信を授けるに当たり、この秘跡が洗礼の恵みを固めること、聖霊の七つの恵みでよりいっそう神に自分をささげ、本当の意味で自由になることができると励ました。またミサ後の感謝式では「いただいたたまものを人々のために使ってください。教会はあなたたちの働きに期待しています」と思いをにじませた。

受堅者代表の田平教会田川天舞音（あまね）さん（中学2年）はあいさつで、「堅信の秘跡を授けてくださり、心から感謝します。同じ時期に恵みを受けた私たちは、高校生、大学生、社会人になってからもつながりを保って、小教区で、平戸地区で力になりたいと思います」と明るく決意を表明した。

佐世保地区

3月3日（日）、佐世保地区合同堅信式が佐々教会を会場に行われた。「父のたまものである聖霊のしるし」を受けたのは、地区内13小教区の成人20人を含む67人。

高見三明大司教は説教で、堅信は洗礼の恵みを具体的に生きる力を与え、「信じる人は愛する人になる」と諭して、堅信の儀に臨んだ。ミサに続く感謝式で代表あいさつをした受堅者は、大司教の説教を受けて、愛する人になるという意識を大切にしていきたいとの決意を自分の言葉で表明した。また、保護者の代表は受堅者に向けて、今日からは親にいわれるからではなく、一人の信者として信仰を生き教会生活を送るのだと激励した。

佐世保地区では合同堅信式の機会に小教区司教公式訪問も順次行われており、今年は、天神教会、太田尾教会で大司教を迎えた。

長崎地区の堅信式

2月16日（土）10時から、滑石教会で堅信式が行われた。小教区名と受堅者数は次の通り。

滑石・中学生8人、時津・中学生3人と大人1人、黒崎・中学生3人と大人1人、出津・中学生2人。

短信

〈教区家庭委員会南地区の映画上映会〉

2月10日、カトリックセンターで教区家庭委員会南地区主催による映画上映会が開催された。これは同委員会が、特に異宗婚家庭への呼び掛けの一環として、家庭をテーマにした映画を毎年2月に上映しているもので、引きこもり・家庭内暴力・児童虐待などの痛ましい事件が連日報道される現代社会の中で〝家庭〟とはどのようにあるべきかを考える機会となることが願われている。

今回上映された映画『ゴンドラ』は、母子家庭で育ったひとりの少女と地方から都会に出て働く青年との心の対話の物語で、「あなたには居場所が有りますか？」とのメッセージが、観る人の心に響いてくるような内容。参加者からは「少し難しかった」「とても素晴らしかった」と、それぞれの受け取り方でさまざまな感想が聞かれ、次回の上映会を期待する声も寄せられた。

〈「潜伏キリシタン遺品」〝里帰り〟に向けた動き〉

長崎大司教区の「潜伏キリシタン遺品里帰り実行委員会」は2月20日、久志利津男委員長（浦上教会主任）、平野 剛事務局長（浦上教会信徒）他計10人で県庁に赴き、平田研副知事と面談した。

一行は、東京国立博物館に保管されているマリア観音像、ロザリオ、十字架などのキリシタン関係遺品を浦上の地で保管したいとの思いから、長崎への〝里帰り〟を求め要望書を提出。その後、3月19日には代表者らが県関係者と共に同博物館を訪れ、意向を伝えた。

絆のありがたさ携え 神学生３人が卒業

長崎カトリック神学院

長崎カトリック神学院の卒業式が2月28日(木)17時から神学院聖堂で高見三明大司教、宮原良治司教を迎え、行われた。

卒業生は、ミカエル池田健吾さん（長崎・植松教会、写真左）、アシジのフランシスコ田中逸樹さん（長崎・深堀教会、写真右）、パウロ横山智さん（福岡・久留米教会、写真中央）の3人。式には家族、主任司祭、養成担当司祭、講師の先生方など多数参列し、卒業生を祝福した。

代表であいさつした横山神学生は、在校生たちと共に過ごした日々を振り返り、「本当の兄弟、本当の家族のようになれた」と培われた絆のありがたさを述べ、時に言葉を詰まらせながら、参列者に感謝の意を表した。

式の後に卒業生を囲んで開かれた祝宴は、在校生による歌やバンド演奏などでにぎやかに彩られ、笑いや拍手の絶えない楽しいひとときとなった。卒業生の3人は、4月から福岡コレジオに生活の場を移し、司祭を目指して引き続き養成を受ける。

典礼奉仕者養成講座

聖週間を控え 受難の朗読学ぶ

1月から3月にかけて教区典礼委員会（委員長＝下山盛朗師）主催の典礼奉仕者養成講座「聖金曜日の朗読奉仕――受難の朗読を中心に」がカトリックセンターを会場に行われた。教区委員会再編に伴い、教会奉仕者養成委員会の任務を典礼委員会が引き継いだことによる企画の第一弾。

いかなる典礼の場でも必要となる聖書朗読の奉仕者養成は教区内典礼の充実に不可欠。朗読の充実は会衆全体が典礼に集中することを可能にし、結果として共同体の霊的充実につながることから、聖週間を控えて受難の朗読が課題として取り上げられた。

参加者数は募集定員を大幅に下回ったが、個人指導の時間を長めに確保できる利点もあった。講師を務めたフリーアナウンサーの東島真奈美氏は、呼吸、声、ことば、意味の伝達、といった朗読の心得を手ほどきしながら、滑舌やアクセントの具体的な訓練の仕方、他の人の朗読を聞く大切さなど、多様な視点を提供して受講者の意識を奮い立たせていた。講座終盤の受講者の朗読は講師の思いを受け止め、聖金曜日の朗読の実りを期待させるものとなった。

教区典礼委員会では今年度から3年間の講座を設ける（※右表参照）。参加者は、聖書、典礼、朗読法について学びを深め、修了後には、小教区の典礼を支えるインフルエンサー（影響を与える人）となることが期待される。

（担当司祭・嘉松宏樹）

教区典礼委員会主催　朗読奉仕者養成講座Ⅰ

年６回（月１回）の連続講座を３年周期で開催

◆2019年度（講座Ⅰ）：日曜日 13時～16時

回	月日	講義1：聖書・典礼	講師	講義2：朗読法	講師
1	5/26	ことばの典礼の構造	平本義和	朗読法1	東島真奈美
2	6/30	聖書本文について	山下 敦	朗読法2	
3	7/28	朗読聖書の緒言1	小島 明	朗読法3	
4	8/25	朗読聖書の緒言2	下原和希	朗読法4	
5	9/29	旧約と新約の関係	山下 敦	朗読法5	
6	10/27	朗読奉仕者の諸任務	嘉松宏樹	朗読法6	

会場　カトリックセンター講堂（長崎市上野町）

対象　典礼で聖書朗読を担当している方、将来担当する方
※2020年度開講予定の講座Ⅱは講座Ⅰの修了者、2021年度開講予定の講座Ⅲは講座Ⅰ・Ⅱの修了者を原則とします。

定員　45人（要申込）
※聴講可（定員外・申込不要・個人指導なし）

会費　1人5,000円（一講座全6回分　※聴講は一講義1,000円）
※1人の申し込みを数人で分担して参加することはできません。

申込み　所属（教会・修道院）、氏名、連絡先を明記の上、長崎教区典礼委員会奉仕者養成講座事務局まで。ファックスまたは書面でお申し込みください。
〒852-8113　長崎市上野町10-34　カトリックセンター
FAX 095-841-7732

締切　2019年4月30日（火）※定員に達した場合はその時点で締め切ります。

みことばにふれて 158

山口 雅稔 神父

（コンベンツアル聖フランシスコ修道会、本河内教会）

「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる」（マタイ6・33）。

レストランでディナーコースをいただく機会がありました。上着を脱いで席に座ります。まずは飲み物を注文します。食前の祈りをして乾杯。一口飲んで、「うまいっ！」。しばらくすると綺麗に飾られた前菜が運ばれます。これもおいしい。次にスープ、そしてサラダ、パルメザンチーズがきいていてこれもまたみんなで堪能。続くパスタもまたまた美味。それが終わると創作された魚料理、みんな喜びます。そしていよいよメインの牛ステーキ、とても柔らかく絶品！　満足度はピークに。しかし、ここまでくればやはりデザートがなければ。おしゃれにデコレートされたケーキとコーヒーが運ばれてきます。楽しく歓談しながらディナーコースを存分に楽しみました。

四旬節で節制している方には申し訳ないのですが、復活祭の時期と思って書いております。料理の一品一品がとても美味しいので単品でも楽しめますし、どれが一番美味しかったとも言えません。コースはやはりコースの流れがあるからいいのです。料理長の腕前と料理の味も大切です。しかしより大切なのは順序ではないでしょうか？

コーヒーとケーキから始まって、ステーキ、サラダ、最後に口直しにビールでは、せっかくの美味しいものも台無しになってしまうでしょう。それぞれの料理も食べる順序があってこそ、その美味しさが引き立ちます。

信仰生活も同じだと思います。順序が大切だと思います。神様の事柄を第一にして、それから日常の生活があります。でなければせっかくの人生の味わいがいまいち足りない味になってしまいます。

「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい」。神様の事柄があって、次があります。次のことはイエス様が保証してくださっています。「そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる」と。主の祈りもまたそうです。天の御父に心を向けてから、日ごとの糧を願います。

神様の事柄を優先すれば、その他の事柄もすべて意味をもって整い、いただいた人生の隅々まで味わい深いものになるでしょう。

ぶどう園

▼聖香油ミサ　4月16日(火)10時30分、浦上教会。

▼第142回クルシリヨ　5月2日(木)～5日(日)、イエズス会立山修道院。問合先・事務長 長浦ヒロ子。TEL 070-2379-3022

▼津和野・乙女峠まつり　5月3日(金)10時30分 聖母行列（津和野教会～乙女峠）、12時 津和野の証し人列聖調査開始宣言ミサ。

感謝

―香典返し―

長崎カトリック神学院

●山崎逸郎様（横浜・相模原）
故アグネス山崎ひろみ様

右の方からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

ヴィヴィナ 松下ユキ修道女

（純心聖母会）

2月20日、ロザリオの聖母修道院で老衰のため逝去。86歳。1932年長崎市生まれ。60年入会。63年初誓願、72年終生誓願。初誓願後、東京、鹿児島、長崎の純心女子学園で、寄宿生や会員のため調理場を宣教の場として働いた。80年から6年間はイエズス会神学院で調理を担当し、神学生養成に協力。また、司祭の食事や身の回りのお世話など、調理師として関わる多くの人々の心と体に配慮し、祈りを込めたおいしい食事でもてなした。やさしく、ユーモアにあふれ、温かい人柄で親しまれていた。葬儀・告別式は2月22日、本部聖堂で行われた。

マリア 田川テル子修道女

（お告げのマリア修道会）

2月24日逝去。93歳。1925年長崎市生まれ。48年南田平（現田平）修道院に入会。58年初誓願、66年終生誓願。入会後、農耕に従事、その後、晩年の山口愛次郎大司教に奉仕した。田平で院長職を終えた後、青砂ヶ浦、島原教会で司祭に仕え、田平に戻った。シスター田川は姉妹はもちろん、信徒にも「テル子姉」と慕われ、多くの人の相談に乗った。畑に出ることが難しくなると、漬物作りを指導し、繕いものをして惜しみなく働いた。3年前から体力が衰え、お世話になった各施設で手厚い看護、介護を受けた。葬儀・告別式は2月26日、田平教会で行われた。

2019年度みつあみの会 一日の祈りの集い

開催日と場所（教会名）
5／11(土)城山、6／27(木)佐々、7／13(土)中町、8／2(金)福江、9／14(土)諫早、10／23(水)植松、11／19(火)西町、12／7(土)本河内、2020年…1／25(土)三浦町、2／18(火)滑石

プログラム
9時15分受付、9時30分開始、16時終了（ミサがある時は16時30分まで）

2週間前までに郵送、ファックス、メールなどでお申し込みください。定員15人。聖書、筆記用具、昼食、参加費500円を持参。

申し込み先

純心聖母会 山田房恵
（祈りの集い担当者）
〒852-8142
長崎市三ツ山町415
FAX 095-843-7570
norasho@outlook.jp

交通誘導警備　常駐警備　イベント警備
（有）小田警備保障
警備員募集！
電話 095-856-6524　FAX 095-856-6523
長崎市横尾3丁目31-15　代表取締役 パウロ　小田　睦

白蟻調査無料・駆除予防工事5ケ年保証付
白蟻防除施工士
大田白蟻研究所
代表者　大島和彦
（〒850-0811）長崎市矢の平1丁目14番15号
☎長崎 095－822－8436
FAX 095－822－8488

不動産・会社・法人の登記や相続の手続
司法書士 山下 緑 事務所
代表者 ミカエル 山下 緑
所属 諫早教会　洗礼 井持浦教会　堅信 福江教会　結婚 浦上教会
〒854-0072 諫早市永昌町20-5　電話 0957-25-4886

石碑
文字彫刻
墓地工事
リフォーム
墓地分譲
長崎石彫（ながさきせきちょう）
ヨゼフ　岩永　博明
☎(095)862-2469
長崎市梁川町6-17　岩永ビル

人と人の絆を大切に・ご葬儀のご相談は
メモリードホール・典礼会館・中央斎場
長崎・諫早・大村・佐世保
株式会社メモリード　メモリード葬祭 検索　事務局　ペトロ　田川慶司
0120-44-6666

注文家具の店　家庭祭壇・聖具・祭壇・長椅子・朗読台
佳織木工所
kaori-mokkousho.com
《家庭祭壇ギャラリーOPEN　パンフレットもございます。》
〒857-0032 佐世保市宮田町7-7
☎0956（23）1867
代表 ラウラ・ビクーニア 濱口 佳織